

# 総合研究棟 一号館が完成

お茶の水女子大学 施設課

総合研究棟一号館が完成しました。建設規模は鉄骨鉄筋コンクリート造、地上八階・地下一階、総床面積五六五七㎡で、工期は平成十三年八月から平成十五年三月。既に、関係



工事前の景観 (表紙と比較下さい)

給断出来る様に設計致しました。これによって、今迄、修理・増改時には、階や棟毎にライフラインを停止させたり、再度天井配線を敷設するといった作業を行っていましたが、この建物ではその様な煩雑さは激減することでしょう。

外観からも分かるように、一スパン毎の外壁部に、格子網で囲んだ垂直シャフトを屋上面まで設置しており、実験設備等の将来における変更に対応出来る様に、長期使用可能な建物にしています。建物内にあっても廊下の天井を板ではなく、格子網を採用することで天井配線類をシースルーにし、メンテナンス性の向上を図っています。



外壁のシャフトの内部

部局に建物を引き渡しました。

この建物の特色は、実験系に比重を置いた構造で、将来の実験内容の変化に対応する為、電気、ガス、給排水、空調、ドラフトチェンバー排気口を一スパン毎に

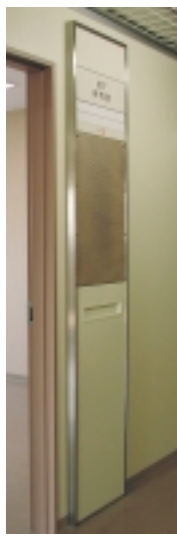


格子天井の実験室

セントレールが印象的な天井になっています。一般の研究室は、天井板を張って冷暖房容積を減らし、投稿口と一体となった標示板を設置、研究室前にはパネルを吊る為の可動フックレールを設置するなど、工夫を凝らしました。

建物色調及び意匠は、学内の施設計画委員

研究室の標示板(上から部屋番号・教員名表札・掲示板・投稿口の配置)上部には廊下の格子網天井、天井際にはフックレールが見える



会をはじめとする会合での検討により、キャンパス景観の統一性維持の観点から、生活科学部本館と同じ高さまで同一色相・同一面状の外壁タイルを使用し、新旧の建物の融合を図ったランドスケープとしています。建物南面には、ベランチ、日時計、パーゴラ屋根を設置し、狭キャンパスにあつて広い空間を取っていますので、学生や



南側広場、ポツンと立つ折れ曲がった鉄柱は日時計

同様に実験系教室の天井も、板を張らずに配管類を剥き出しにする事で、改修や装置の移動などでも、天井配管を調べるのに、いちいち天井板を剥がし直す必要が有りません。その為、多くの実験室は天吊式可動電源コンセントレールが印象的な天井になっています。

教職員等の憩いの広場として、活用が期待されます。総合研究棟と図書館との間には、高さ約5mの地盤高低差があり、そこにL型構造コンクリート擁壁を設置することで土留めをしています。



いずれ流水が見られる段々池、右にはパーゴラ屋根群が

この擁壁の基礎を利用して、防災及び災害時の活用水となる防火用水槽(約三六七)を設けました。総合研究棟屋上に降った雨水を利用しており、濾過装置と擁壁の高低差を活かし、流水(循環)させることにより酸素浄化し、水の汚濁防止に利用します。雨水利用では、平成十五年度の生活科学部本館改修工事でも同様に集水して利用する計画です。

その他にも、屋上面積の二〇%を緑化してヒートアイランド防止を心掛けたり、廊下や階段の照明を、人感センサーにより自動消灯させるなど、省エネルギーや環境対策を実施しています。

総合研究棟屋上よりの眺望は、文京区の建物群や、晴れた日には富士山まで見えますので、一度は機会を見て最上階へ上がってみて下さい。



八階から富士山を望む

最後に、工事期間中は、車輛搬入、騒音、仮設道路等に関係各位にはご迷惑をお掛けしたかと思いません、その間の御協力に感謝致します。また、今後本学及び地域の発展に寄与出来る建物等の整備に、施設課技術職員一同は努力してまいりますので、更なる御助言をお願い致します。